

2. 投稿原稿の体裁

- ① 投稿原稿は、表紙、和文要旨、和文キーワード、英文要旨、英文キーワード、本文（謝辞、付録、記号表、参考文献を含む）および図表で構成され、表紙から通し行番号とページ番号をつけた、一つの文書ファイル（DOC(X)形式に限る）とすること。また、②～⑤に記された体裁となるように作成すること。なお、投稿原稿の見本が本会ホームページからダウンロード可能である。
- ② 表紙には、A4判1ページに表題（和文および英文の両方）、著者名、所属を記すこと。
- ③ 和文要旨と和文キーワード、英文要旨と英文キーワードは、それぞれA4判1ページに納まるように作成すること。
- ④ 本文は、A4判1ページあたり1400字程度を目安にして、マージン、文字数、行数、文字サイズを設定し、見やすく作成すること。
- ⑤ 図表は、本文とは別にして図表ごとにページを分けて作成し、それぞれに図表の通し番号およびタイトルを記すこと。
- ⑥ 投稿原稿は、アップロード後にPDFファイルに自動変換される。その際、文字化けや数式のずれなど、体裁に不備がないかを必ず確認すること。ファイル容量は、20MB以下にすること。なお、掲載決定後、紙面作成上の問題がある場合には、別途指示されたファイル形式の掲載用原稿の提出を求められることがある。
- ⑦ 投稿原稿の内容を補足説明する図表等を、投稿原稿とは別に、補足資料（サプリメンタルインフォメーション）として添付することも可能である。この場合、補足資料として受付可能なファイルは、DOC(X)あるいはPDFのみであり、投稿原稿本体とは異なるファイルとし、書式は任意とする。また、アップロードされた補足資料は、本文とは別のPDFファイルに自動変換される。補足資料として図表を掲載する場合は、本文中の図表とは独立した通し番号をつけることとする。

補足資料の図表の通し番号の付け方

Fig. S1, Fig. S2, ... もしくは 図 S1, 図 S2, ...

Table S1, Table S2, ... もしくは 表 S1, 表 S2, ...

なお、DOC(X)あるいはPDF以外のファイル形式の補足資料が必要な場合には、筆者自身のウェブサイト等で公開すること。

3. 参考文献の記載方法

下記の記載例に倣ってください。その際に、姓名、年、タイトル、雑誌名などの順番、英語 First name のイニシャル表記と順、ピリオド、コンマ、ブランク、などの位置、立体、斜体などにも注意を払ってください。

雑誌論文記載例

- 1) 岩田杉夫, 遠藤忠嗣, 井上隆信, 横田久里子, 大久保陽子, 2013. 中小河川からの栄養塩負荷の流出特性. 水環境学会誌 36(2), 39-47.
- 2) Gunawardana, E.G.W., Satoh, H., Mino, T., 2014. Analysis of bacterial communities in treated water and activated sludge and evaluation of an easy methodology for preparing PCR-compatible DNA extracts. Journal of Water and Environment Technology 12(1), 1-12.
- 3) Kikuchi, M., Wakabayashi, M., Kojima, H., Yoshida, T., 1980. Bioaccumulation profiles of ³⁵S-labelled sodium alkylpoly(oxyethylene) sulfates in carp (*Cyprinus carpio*). Water Research 14(10), 1541-1548.
- 4) 吉村孝一, 中柴篤男, 1982. 活性汚泥による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム (LAS) の生分解性に関する研究(I)—LASの吸着機構について. 水質汚濁研究 5(1), 19-25.
- 5) Chys, M., Audenaert, W.T.M., Deniere, E., Mortier, S.T.F.C., Van Langenhove, H., Nopens, I., Demeestere, K., Van Hulle, S.W.H., 2017. Surrogate-based correlation models in view of real-time control of ozonation of secondary treated municipal wastewater—model development and dynamic validation. Environmental Science & Technology. DOI: 10.1021/acs.est.7b04905

単行本記載例

- 6) Fogg, G.E., 1975. Algal Cultures and Phytoplankton Ecology, 2nd ed. Univ. of Wisconsin Press, Madison, WI, USA, p. 125.
- 7) Newman, J., Thomas-Alyea, K.E., 2004. Electrochemical Systems, 3rd ed. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken, NJ, USA, pp. 193-195.
- 8) von Sonntag, C., von Gunten, U., 2012. Chemistry of Ozone in Water and Wastewater Treatment: From Basic Principles to Applications. IWA Publishing, London, UK.
- 9) 合田健, 1975. 水質工学 (基礎編). 丸善, 東京.

編著本記載例

- 10) 坂本充, 1982. §3 湖沼の富栄養化. 社団法人日本水質汚濁研究協会編, 湖沼環境調査指針. 公害対策技術同友会, 東京, pp. 11-13.
- 11) Bierman, V.J.Jr., 1976. Mathematical model of the selective enhancement of blue-green algae by nutrient enrichment. In: Canale, R.P. (Ed.), Modeling Biochemical Processes in Aquatic Ecosystems. Ann Arbor Science, Ann Arbor, MI, USA, pp. 1-29.
- 12) Zhang, X., Echigo, S., Minear, R.A., Plewa, M.J., 2000. Characterization and comparison of disinfection by-products of four major disinfectants. In: Barrett, S.E., Krasner, S.W., Amy, G.L. (Eds.), Natural Organic Matter and Disinfection By-Products: Characterization and Control in Drinking Water. American Chemical Society, Washington, DC, USA, pp. 299-314.

ウェブページ記載例

- 13) U.S. EPA, 2007. EPI Suite, Version 3.20. URL. <http://www.epa.gov/opptintr/exposure/pubs/episuite.htm> (2008年10月時点).
- 14) 農林水産省動物医薬品検査所, 2008. 動物用医薬品等データベース. URL. http://www.nval.go.jp/asp/_dbDR_idx.asp (2009年12月時点).
- 15) 環境省, 2011-2012. 平成21-22年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書. URL. http://www.env.go.jp/policy/hakusho/past_index.html (2012年9月時点).

報告書記載例

- 16) 古米弘明, 2012. 非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究. 平成23年度環境省環境研究総合推進費成果報告書 (RFb-11T1). 社団法人日本水環境学会, 東京.

(平成21年2月9日制定)

(平成22年3月24日改正)

(平成22年12月6日改正)

(平成23年2月24日改正)

(平成23年10月1日改正)

(平成24年11月26日改正)

(平成26年7月28日改正)

(平成27年11月5日改正)

(平成29年3月16日改正)

(平成30年5月8日改正)